



平成19年11月28日

各 位

会 社 名 ゼネラルパッカー株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 梅森 輝信
(JASDAQ・コード6267)
問 い 合 わ せ 先 取締役管理部長 小関 幸太郎
電 話 番 号 0568(23)3111(代表)

平成20年7月期中間(非連結)業績予想の修正及び 通期(非連結)業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年7月期(平成19年8月1日～平成20年7月31日)の業績予想について、平成19年9月10日付当社「平成19年7月期決算短信(非連結)」にて発表いたしました業績予想を下記の通り修正いたします。

記

1. 平成20年7月期中間業績予想の修正(平成19年8月1日～平成20年1月31日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	中間純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成19年9月10日発表)	1,800	8	10	3
今 回 修 正 予 想 (B)	1,400	△100	△95	△57
増 減 額 (B-A)	△400	△108	△105	△60
増 減 率 (%)	△22.2	—	—	—
(ご参考) 前期実績(平成19年1月中間期)	2,082	109	112	68

(修正理由)

当中間期の売上高につきましては、前期末の受注残高が少なかったことから、前年同期比282百万円の減少を計画しておりました。また、大型展示会費用及び新工場関連費用などの発生により、販売費及び一般管理費が増加することから、営業利益は前年同期比101百万円減少の8百万円を予想しておりました。

しかしながら、原油価格高騰による包装材料のコスト増や食品原材料の高騰などを背景に、顧客の設備投資計画の見直しが多く発生したことなどから、当中間期に売上可能な案件の受注が計画を下回るとともに、売上計上時期が下期にずれ込む案件が発生したことにより、当中間期での売上高は前回発表予想を下回る見通しとなりました。このため、当中間期の売上高予想を1,400百万円に修正いたします。

また、利益面に関しましては、販売費及び一般管理費の抑制等に努めるものの、売上高の減少に伴い売上総利益が大幅に減少することから、前回発表予想を下回り、赤字が発生する見通しとなりました。このため、当中間期の営業利益予想を△100百万円、経常利益予想を△95百万円、中間純利益予想を△57百万円に修正いたします。

2. 平成20年7月期通期業績予想の修正（平成19年8月1日～平成20年7月31日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年9月10日発表)	4,600	247	250	135
今回修正予想(B)	4,200	224	230	127
増減額(B-A)	△400	△23	△20	△8
増減率(%)	△8.7	△9.3	△8.0	△5.9
(ご参考) 前期実績(平成19年7月期)	4,074	211	213	118

（修正理由）

通期の売上高につきましては、上期からの繰越分がある一方、下期見込み案件が来期へ延期されることも予想されることから、中間期での計画比400百万円の減少差異をカバーすることが難しい状況となり、前回発表予想を下回る見通しとなりました。このため、通期の売上高予想を4,200百万円に修正いたします。

また、利益面に関しましては、コストダウンと販売費及び一般管理費の抑制等に努めるものの、通期売上高の減少に伴う売上総利益の減少をカバーすることが難しいことから、通期の営業利益は前回発表予想を下回る見通しとなりました。このため、通期の営業利益予想を224百万円、経常利益予想を230百万円、当期純利益予想を127百万円に修正いたします。

なお、平成20年7月期の配当予想につきましては、平成19年9月10日付当社「平成19年7月期決算短信（非連結）」にて発表しましたとおり、中間配当3円50銭、期末配当3円50銭、併せて年間配当7円を予定しております。

（注）上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以上